



内部には太平洋戦争で受けた銃撃の跡が残っています。



内部は一室空間。かつての霧笛の装置を見ることができます。右手前は復元された犬吠埼灯台の初代レンズ。

屋根には霧笛のラッパが飛び出しています。犬吠埼の霧笛は圧縮空気で音を鳴らす「エアサイレン式」。30秒隔てて5秒鳴る周期でした。

かまぼこ型の屋根も外壁もすべて鋼板。工期が限られる環境でつくるのに適した、パーツを組み立てるだけのシンプルな工法でつくられています。

登録有形文化財

旧犬吠埼霧信号所 霧笛舎

現存唯一の鉄造霧笛舎
現存最古の国産鉄造建造物

霧笛舎は霧で視界が悪いとき船にその方位を音で知らせた施設です。建設は明治43(1910)年。GPSの普及で平成20(2008)年に役目を終えました。かまぼこ型屋根の鉄造建物は明治の日本の灯台に特有の様式ですが、現存するのは犬吠埼だけ。その成分から鋼板は創業間もない八幡製鉄所製と判明。国産の鉄を使った現存最古の建物とみられています。



装置全体の高さは5.15メートル、総重量は13トン。大きさに圧倒されます。

国産第1号の 第1等レンズ

回転する第1等レンズが見られるのは犬吠埼だけ

資料展示館に展示されているレンズは犬吠埼灯台と同等の大型第1等レンズ。沖ノ島灯台(福岡県宗像市)で大正11(1922)年から平成19(2007)年まで使われていました。

灯台のレンズは一番大きい1等(レンズ直径259センチメートル、焦点距離92センチメートル)から順に6等まで、それより小さい等外という等級があります。